

平成30年9月25日(火)

満月

古来つき満ちる日を望月と呼びます。

陰暦十五夜の月。満月のことで、狭義には陰暦8月15日の夜の月をさします。

「もち」は「持ち」の義でつり合う意といい、陰暦大の月16日、小の月15日の月が太陽と東西に正しく相対するために「もちつき」というとか、この日の月が全円形となって左右対称となるからなどとする説があります。

年中行事の格好の指標とされ、古来、小(こ)正月(1月)、盆(7月)、名月(8月)などの行事が知られる。

満月の欠けたところのないことから、偉大、盛大、豊満などの意をもつ枕詞(まくらことば)「望月の」として用いられ、「たたはし」「足る」などにかかり、また満月が美しく、愛すべきものであるところから、そうした意で「愛(め)づらし」にもかかる言葉です。

竹取物語に、次の記述があります。

「かかるほどに、宵うち過ぎて、子の時ばかりに、家のあたり、昼の明かさにも過ぎて光りたり。望月の明かさを十合わせたるばかりにて、ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。」

[現代語訳]

こうしているうちに、宵を過ぎて、午前0時ごろになると、家の周辺が、昼のときの明るさ以上に光りました。(それは、)満月を10こ合わせたほど(の明るさ)で、(その場に)居合わせた人の毛穴まで見えるほどでした。

満月を10個合わせたような光がやってくるとするならば、異星人の襲来だったのか、警護の武士達はそのもの達にあらがうことができず、かぐやは月に帰って行ったという話です。昨夜の月はいかがでしょうか。陰暦8月15日の望月であります。